

## 第2時 感情体験

# いじめられる人の 気持ちに なってみよう

### ◆ねらい

学級全体に「いじめを許さない」という雰囲気をつくるために効果的な方法として、いじめられるつらさ、悲しさ、悔しさなどの気持ちを実際に「体験して感じる」ということがあります。

第2時では、その感情を体験させることを目標にします。もちろん教師がいじめに対して毅然とした姿勢を見せることも大事です。しかし、いじめっ子がいじめをやめる理由は、「教師や親のお説教」ではなく、「いじめられた人の気持ちがわかったから」なのです。

いじめられたときの感情を、安心・安全に体験させるためには、「バーチャルな枠組み」をしっかりとつくりなければなりません。ここで体験した「いじめ」が、実際の生活で再現されるようなことが絶対ないように、学級の実態に応じて「いじめ」のシナリオを変えて実施したり、子どもたちに「これはシナリオだ」という意識を十分に持たせるようにしましょう。

	児童生徒の活動	教師の指導・支援	留意点
導入 (5分)	<p>前時のふりかえり</p> <p>ウォーミングアップとして演習【どんな気持ち?】を実施</p> <p>本時のめあての確認</p>	<p>○前時の授業で学習したことや、学級で取り組んできたことを想起させる。</p> <p>「前は、友達ともっと楽しくかわれるように、『上手な話の聞き方』について学習しましたね。</p> <p>復習とウォーミングアップのために、前回実施した【どんな気持ち?】をやりましょう。」</p> <p>「では、いじめられるとどのような気持ちになるのでしょうか。これから一緒に考えてみましょう。」</p>	<p>○前時の学習を日常生活で実践してみた子を積極的に評価する。</p> <p>(実施方法は第1時参照。ウォーミングアップとして実施するので短時間に適宜簡略化する)</p>
いじめの感情体験	<p>いじめ場面のロールプレイ</p>	<p>○シナリオを説明し、一人一役を与えて演技をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめられる役</li> <li>・いじめる役</li> <li>・まわりではやしたてる役</li> <li>・見てみぬふりをする役</li> </ul> </div> <p>の4つの役を設定する。</p> <p>○学級の実態に応じて、いじめ集団の規模を選択して行う。</p> <p>①学級全体で1つの演技をする場合</p>	<p>(シナリオは後述)</p> <p>○どうしても参加できない子は様子を見ていてもよい。</p> <p>①の場合 より本物のいじめに近い構造で感情体験ができることをねらう。友達を傷つける発言をする子がいて、教師の目が届かないと安全・安</p>

	<p>②グループごとに1つの演技をする場合</p>	<p>心に感情体験ができない場合は、こちらがよい。</p>
<p>シェアリング</p>	<p>○本時のめあてであるいじめられる役の気持ちに特に焦点を当てて、それぞれの役の気持ちを確認する。</p>	<p>②の場合 よりたくさんの子どもたちが、いじめられる人の気持ちを理解できることをねらう。学級に、友達とかかわるスキルが高い子が多くいることが望ましい。</p>
<p>いじめを止める役をつくり、同じシナリオでロールプレイ</p>	<p>①学級全体で1つの演技をする場合 先ほどの役にいじめを止める役を加え、5つの役で行う。2回目以降は、いじめを止める役の人数を増やして行う。</p> <p>②グループごとに1つの演技をする場合 いじめられる役・いじめる役・いじめを止める役・まわりで見ている役の4つを設定する。2回目以降はいじめを止める役の人数を増やして行う。</p>	<p>○役を担当した子の心理的負担が大きそうな場合は、演技をする人を替える。</p> <p>○ピア・プレッシャー(集団の圧力)を感情体験することで、「いじめを許さない雰囲気、一人ひとりが協力することによってつくっていくことができる」と感じられるようにする。</p>
<p>シェアリング</p>	<p>○止める人数が増えると「いじめられる役のいじめにくさ」や「止める役の止めやすさ」が増していくことを確認する。</p> <p>「見て見ぬふりをする人も、いじめに参加していることとなります。見て見ぬふりをする人たちは、心の中ではかわいそう・助けたいと思っていて、自分はいじめに参加していないつもりかもしれませんが、しかし、いじめられる人から見ると敵であり、いじめに参加している人に見えるのです。</p> <p>いじめは、いじめるといじめられる人だけの問題ではなく、まわりで見ている人たちも含めた、学級全体の問題です。一人で止めることは難しくても、みんなで力を合わせて止めれば、いじめを起こさせない力になるということがわかりましたね。」</p>	<p>○いじめは、いじめられる人といじめる人だけの問題ではなく、学級全体の問題であることが確認できるようにする。</p> <p>○特にいじめられる役の子に嫌な気持ちが残らないように配慮する。例えば、嫌な役をやってくれたことに対して子どもたち同士でねぎらいの握手をさせたり、「ごめんね」という言葉をかけさせたりする。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ (5分)</p>	<p>ふりかえりシートの記入</p>	<p>○本時をふりかえり，次時の予告をする。</p> <p>「今日は，いじめられるとどのような気持ちになるのかについて，からかわれるというシナリオで，学習しました。次の授業では，今度はいじめる人はどのような気持ちになるのかについて，陰口や無視というシナリオで学習していきたいと思います。」</p>	<p>○授業後，子どもに嫌な気持ちやわだかまりが残らないように，ストレッチなどの気分転換を取り入れる。</p>
---	--------------------	--	---

◆ワンポイント 「直接，心を傷つけるいじめ」として，からかうという場面を設定しました。ほかのシナリオを用いる際は必ず，「いじめられる役をする子が持っていない特徴」でからかう場面を設定するようにしましょう。現実の生活とは切り離された枠組みを用意することで，安心・安全な感情体験ができます。

## シナリオ 小学生用

Aはこの前トイレに行ったとき、うっかりと手を洗うのを忘れてしまいました。  
BとCはそれを見ていて、その日からAのことを「バイ菌」と呼んだり、「ふけつ」と言ったりしています。また、「バイ菌がうつる」という理由で、Aに触ったり近くに行ったりするのを嫌がります。

※Bは、Aにプリントを配布しない。

A「プリント回してよ」

B「Aさんはふけつだから、プリント配りたくない」

A「ふけつじゃないよ」

C「だって、Aさんはこの前トイレのあとに、手を洗わなかったでしょ」

B「そうそう！ Cさんと見てたんだからね」

A「あのときは、たまたま洗い忘れてただけで……今日は、きれいだよ」

C「Bさん！ Aさんと話してたら、バイ菌がうつっちゃうよ」

B「そうだね。Aさんはふけつだから、話さないほうがいいよね」

A「今日は、きれいだって言ってるのに……」

- \* クラスの実態や発達段階によって、簡単な紙芝居にするなどして、子どもたちがいじめの場面を把握できるようにします。
- \* 休憩時間などに演技をするメインの役（いじめられる役・いじめる役）を決めて、簡単な打ち合わせをしておくで、時間が省けるでしょう。また、演じる際は教室の前に出たり、演技の間だけ近くの席に配置したりすると、演技がしやすいでしょう。

## シナリオ 中高生用①

Aは教科書の音読を指名されたとき、つかえてしまい、クラスで笑われてしまいました。

次の授業で、またAの順番になったとき、後ろの席のBとCが小さな声で「また、読めないんじゃない？」と言いながら、クスクス笑っています。そのことがプレッシャーとなって、Aが小さな声で読んでいると、後ろから「聞こえませ〜ん」「何を言っているかわかりません」などの声があがり、他のクラスメイトも笑っています。Aに対するからかいが、しだいにクラス全体に広がって行ってしまいました。

※Aが指名されて、小さな声で教科書を読んでいる。

A「……………」

B「聞こえませ〜ん。もっと大きな声で読んでくださ〜い」

A「……………」（1回目より、ちょっとだけ大きな声で）

C「すみませ〜ん。何て言ってるか全然わかんないですけど」

D「アハハハ〜！」（大勢で笑う）

A（黙ってしまう）

E（下を向いて黙っている）

〈2回目は続きとして〉

F「からかったり、笑うのやめなよ。そういうこと言われたら、だれだって嫌でしょう？」

- \* 授業中のささいな場面が、いじめの発端となることに気づかせるようにします。
- \* このシナリオでは、「いじめられる役（A）」「いじめる役（B・C）」「まわりではやしたてる役（D）」「見て見ぬふりをする役（E）」の4役でロールプレイをすることが可能で

- す。クラス全体で1つの演技をする場合は、「まわりではやしたてる役」が笑い、「見て見ぬふりをする役」は、下を向いて黙ってしまうという演技を割り当てるといいでしょう。
- \* 1回目は4役でロールプレイを行い、2回目は「いじめを止める役（F）」を加えて演技し、そのときのAの気持ちを比較してシェアリングしてみるといいでしょう。

### シナリオ 中高生用②

昼休みにAが図書室から借りた本を読んでいると、後ろでBとCのグループが「Aっていつも本ばかり読んでいて暗いよね」「話しかけても続かないよね」「何、考えているんだろうねえ〜」などとうわさ話をしています。

ある日の休み時間、いつものように本を読んでいると、また自分のうわさ話が始まったので、Aは思いきって後ろを振り返ってみました。すると、BやCが「うわっ、こっち見てる、キモイ！」などと大声で叫び、それを見ていたまわりの人たちまで一緒になって笑い始めました。

※Aが昼休みに教室で本を読んでいる。

B「Aさんってさ〜、いつも本ばかり読んでるよね。暗いよねえ〜」

C「だよ。何、考えてるか、全然わかんないよね」

B「このあいだ、話しかけてきたんだけど、何言ってるか全然わかんなかった」

C「うける〜」

※たまりかねてAが振り返る。

A「……あの……」（小さな声で）

B「うわっ！ こっち見てるし。こわっ」

C「超キモイんですけど〜」

D「アハハハ〜！」（大勢で笑う）

A（黙ってしまう）

E（見て見ぬふりをして、下を向いて黙っている）

〈2回目は続きとして〉

F「からかったり、笑ったりするのやめなよ。陰口はよくないよ」

- \* グループでロールプレイをする場合は、全員が一度はAの立場を体験することが大切です。
- \* このシナリオでは、クラスの実態に応じて、メインの役（いじめられる役・いじめる役）以外にも、「まわりではやし立てる役（D）」「見て見ぬふりをする役（E）」を加えて、4役でロールプレイをすることが可能です。
- \* 1回目は4役でロールプレイを行い、2回目は「いじめを止める役（F）」を加えて演技をし、そのときのAの気持ちを比較してシェアリングしてみるといいでしょう。

## 板書案

### めあて（目標）

#### いじめられる人の気持ちになってみよう

##### <いじめられる気持ち>

- ・悲しい
- ・いやな気持ち
- ・だれも助けてくれないので信用できない

##### <見て見ぬふりをする人の気持ち>

- ・いじめられる人がかわいそう
- ・助けると自分がいじめられそう



##### ○いじめを止める人が増えると……

##### <いじめられる人>

- ・うれしい
- ・心強い

##### <いじめる人>

- ・いじめにくくなる
- ・悪いことをしていると気づく

##### <いじめを止める人>

- ・注意しやすくなる
- ・自分がいじめられる心配が少なくなる

クラスみんながいじめを起こさせないようにすることが大切。

### ◆配慮事項

- ・デモンストレーションやクラス全体でロールプレイを行う場合は、「いじめられる役」を友人サポートスキルの高い子どもに割り当てるように配慮することが大切です。
- ・2回目以降のロールプレイで、「いじめを止める役」を増やしていく体験ができたとき、「見て見ぬふりをする役」だった子どもの気持ちの変化をシェアリングさせるといいでしょう。

ふりかえりシート2

# いじめられる人の気持ちになってみよう

ねん 年      くみ 組      ばん 番      なまえ 名前

---

1 当てはまるところに、○をつけましょう。

	そう思う	少し思う	あまり思わない	そう思わない
① いじめられる人の気持ちがわかった。				
② いじている人がいたら、自分一人でも止めようと思う。				
③ いじている人がいたら、友達と一緒に止めようと思う。				

2 感想や気づいたことを、自由に書きましょう。

ふりかえりシート2

# いじめられる人の気持ちになってみよう

年 組      番 名前

---

1 当てはまるところに、○をつけましょう。

	そう思う	少し思う	あまり思わない	そう思わない
① いじめられる人の気持ちがわかった。				
② いじている人がいたら、自分一人でも止めようと思う。				
③ いじている人がいたら、友達と一緒に止めようと思う。				

2 感想や気づいたことを、自由に書きましょう。